

介護予防紙

第9号（令和5年9月発行）



藤村たかし

認知症高齢者に優しい社会

社会の課題の一つとして取り上げられているのが、認知症を患った方が生活する上で、さまざまな支障を取り払い、社会の一員として生活できるかです。

1. まずは家族単位で考えてみましょう。その人の認知症状を理解することから始めます。

- (1) 認知症状は、例えば、見当識障害や記憶障害等々
- (2) 一日の行動を観察しましょう。例えば、食事や寝起きの時間等の生活リズム
- (3) コミュニケーションを取って、その人がいつの時代にいるのか知ること
- (4) 認知症になる前のその人の癖や好き嫌いを知しましょう。
- (5) その人の生い立ちを調べてみましょう。（例えば、生まれた場所、親・兄弟、配偶者、子供、仕事等々）

以上、確認しておくことで、その人の一つひとつの行動を理解できるようになります。また、後々の対応でも必要となります。



2. 社会として、認知症の方との関わりで大切なことは

- (1) 社会として認知症を理解することが大切です。

各地域包括支援センター等による認知症についての講習等がありますので、地域として参加することで、地域内の一人ひとりの方たちが認知症に対して理解できます。認知症患者は、令和7年には全国で約700万人を超えて、65歳の5人に1人が認知症になると予測されてもいますので、地域内の身近なところで認知症の方が多くなってきます。したがって、今後は地域内で認知症の方を把握しておく必要があり、その方たちに対して地域社会全体で守り、社会の一員として認識することが必要不可欠であります。

- (2) 社会での行事の参加や役割等を与えることは認知症予防に有効です。例えば、回覧板を配る、自治会の集会に出席する、地域の祭りの準備を手伝ってもらい、地域のゴミ拾いなどの清掃等々、社会の一員として、そしてその人の役割として行うことが大切です。

一番大切なことは、社会がその人を必要としていることを本人に伝えることです。これからは地域社会全体で認知症予防に取り組むことが大切です。

頭の体操

前回の答え

□に1文字を入れてタテ・ヨコ言葉を完成させてください。

さ	く	ら	く	ア	ス		
お く ら	だ る ま	い く ら	し じ み	タ イ ヤ	ア ス キ		
ら	ま	だ	ら	ス	メ		
さ	と	ら	わ	サ	つ		
い か だ	た ま こ	か っ ぱ	か か し	タ ン ス	な み だ		
な	と	こ	め	タ	き		

今回の問題 次の問題に答えてください。

1. 埼玉県に唯一の村があります。その村名は？ () 村)
2. ひな人形と花で有名な市は () 市)
3. 埼玉県内で梅で有名な町は () 町)
4. 荒川でライン下りが有名な町は () 町)
5. 鑄物の街といわれている埼玉県内にある市は () 市)
6. 2005年1月に飯能市に編入合併された村は () 村)
7. 渋沢栄一誕生の地で有名な市は () 市)

答えは次の介護予防紙で発表します。

特殊詐欺の被害に遭わないために

令和5年6月末の特殊詐欺認知件数は615件、被害金額は14億3,811万円と前年同期に比べて、認知件数、被害金額ともに増加しており、特殊詐欺の犯人から電話がかかってきたとの通報も毎日のように寄せられています。「自分はだまされるはずがない」、「うちの親は大丈夫だ」などといった先入観は捨てて、ふだんから家族や身近な人と気軽に相談できる環境づくりを心がけましょう。

犯人の話術は巧妙であり、電話に出るとだれもが騙される可能性があります。

犯人からの電話に出ないために

- 在宅中も留守番電話にセットする
- 防犯機能付き電話を使用する



などして、被害に遭わないための対策をとりましょう。万が一、電話に出てしまった場合に備え、

- 家族で合言葉を決めておく

ことも被害防止のために有効な方法です。

(埼玉県警察ホームページより抜粋)

藤村たかし後援会

本部：鴻巣市榎戸 1-4-21 TEL048-548-0001

箕田支部：鴻巣市箕田 270-1 (株) 彩香らんど内 TEL048-595-3333 FAX048-595-3330

ホームページ **工事中** メールアドレス **工事中**

介護予防紙の次回発行は
令和6年3月頃です。
よろしくお願いします。

